

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091100398		
法人名	特定非営利活動法人福岡地域福祉サービス協会		
事業所名	グループホーム ひまわり大楠		
所在地	福岡県福岡市南区大楠1丁目17-7		
自己評価作成日	平成31年2月20日	評価結果確定日	令和1年6月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_pref_search_keyword_search=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成31年3月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

住み慣れた地域の中で、その人らしく、一人ひとりが、自身のペースで生活していけるよう支援、援助を行っています。利用者の思いや希望を尊重し、自己決定を大切にしています。できること、やりたいことを決して取り上げることなく、自信と生きがいをもって過ごしていけるよう職員一同取り組んでいます。地域密着型として地域の認知や理解を深めるために地域や公民館行事に参加をして交流しています。開設1年目で施設は新しく明るくて、家庭的な雰囲気のある生活を過ごしています。又、利用者の医療面でも同施設内に診療所・訪問看護ステーションを併設しており、事業所にも看護師が常時対応できる体制で、早期発見、対応を行っています。さまざまな専門職との連携もスムーズにできており、看取りも可能です。常に家族と一緒に連携をとりながら利用者を支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム「ひまわり大楠」は平成29年10月に創立。5階建てのビルでアクセスのよい場所にある。公民館も間近にあり、地域密着型として住み慣れた地域の中で暮らせるように、地域との交流を深めている。1階はリハビリ型デイサービス、2階は診療所、3階は小規模多機能ホーム、4、5階が2ユニットからなるグループホームである。複合施設である利点を活かし、様々な専門職との連携もスムーズにでき、安心して生活できるよう環境づくりに力をいれている。「暮らしの保健室」と言う交流の場所として、月1回「みつばちカフェ」を開催し、地域の方にも参加していただいている。住み慣れた地域の中で、その人らしく生活ができ、できることを取り上げることなく、自信と生きがいを持って過ごせるように、職員一同で取り組んでいる。今後も地域福祉の中心となり、益々の発展が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を基に「その人らしく生活できるように…」管理者と職員が意義を共有し、家事を一緒にしたり、地域の活動に参加し日々実践している。又、職場会議で理念と基本方針の確認を行っている。	法人の理念は別にあり、事業所の理念は職員全員で考えた。各ユニットに掲げてあり、ハートの中心に「その人らしく生活できるように…」と理念が書かれ、ハートを囲むように和、笑顔、尊重など6個の言葉があり、心の中に自然に取り込める。月1回、第四木曜日に、2ユニット合同で職場会議で話し合い、その理念を共有し実践につなげている。	管理者と職員は職場会議で話し合い、理念を共有し、実践につなげている。今後個人目標と立て、目標に向け、スキルアップを行うようにしてみたらどうだろうか。より深く理念に沿った実践につながると思われる
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	・地域行事に参加している。1回/月、公民館主催のふれあいカフェにおやつを利用者と一緒に作って参加している。公民館便りを見て参加できるイベントに積極的に出るようにしている。(地域の夏祭り、文化祭等) ・1回/月みつばちカフェ(暮らしの保健室)を施設で開催して、地域の方に参加していただいている。	毎月第3火曜日にある公民館のふれあいカフェでは音楽や朗読、落語などが実施されており、職員と入居者と一緒にお菓子を作り参加し、コーヒー、お茶を頂いた。公民館だよりで案内され、地域の夏まつり、文化祭などにも積極的に参加している。認知症サポートの養成講座を事業所で開いたことがある。施設で開催する「みつばちカフェ」では健康体操、認知症サポーター「湯尾」制、終活、絵手紙などの話を行っている。案内は近隣宅のポスティングや、診療所スタッフと一緒に各家庭を訪問して行き、近隣住人の参加もあり、盛況である。	現在、町内会に加入していないので、今後加入する予定との事。加入実現に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・上記、みつばちカフェを開催し、認知症の方への理解や情報の共有に努めている。又、介護相談を受け付けている。・ラン友に参加 ・同施設内の他事業所と共に認知症サポーター養成講座(地域社協協力)を開催		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	・1回/2ヵ月会議を実施しており、民生委員、公民館館長、区長(行事多忙で欠席多い)、社協、包括、利用者、家族に参加をして頂いている。状況・活動報告、事故報告し、家族・地域からの意見を伺い、地域情報も得るようにしている。意見はサービス向上につなげている。	隔月で実施しており、二家族に一年間出席をお願いしているほか、民生委員、公民館館長、社協、包括などからの参加がある。議事録は玄関に置いてある。運営推進会議で、家族、地域からの意見をいただき、職員全員で話し合いサービス向上に努めている。外部評価の各項目につき、全職員の考えを、報告してもらい職場会議で、伝達講習を行っている。「ひまわり大楠便り」で家族には近況報告を行い、管理者がひと言、書き添える。	運営推進会議時及び家族の事業所訪問時に交流室で家族の意見を伺い、サービス向上に努めている。今後、家族会を行う事も考えており、より多くの意見を吸い上げるようにしようと思うとの事。ぜひ家族会を開催できるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・運営上の不明なことは、市担当者に意見を伺うようにしている。 ・衛生管理に関して判断がつかないことは、保健所に伺っている。(事故報告、インフルエンザ等対策等) ・金銭管理の必要性がある利用者があり、金銭管理規約を基に、社協の方と協力している。	運営上の不明な事は、市担当課に電話で尋ねており、最近では利用者の件や、長期入院中の空き室は利用できるのかの相談を行い、法人の介護事業実績があれば届出は可能との回答を得た。社協より生活保護の方の相談を受けることもあり、インフルエンザ陽性の利用者が2名いた際は、対策などにつき保健所に意見を伺った。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・研修会に参加し、伝達学習会をして意識づけをしている。 ・身体拘束廃止委員会の開催1回/3ヶ月 ・身体拘束・スピーチロックに対する意識調査 ・安全面でセンサーを必要とする場合は、ケアプランに記載している。	外部研修に管理者、職員が行き内部研修に落としている。三か月に1回身体拘束委員会の開催があり、スピーチロックに対する意識調査などを行っている。スピーチロックに気が付いた時はすぐに注意をする。一年前に急に立ち上がり股関節を骨折した利用者があり、離床センサーは、二人夜間だけ利用しており、ケアプランに記載している。	

H31.3自己・外部評価表(ひまわり大楠)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	・職員が研修に参加し伝達学習を行っている。 ・「利用者第一」の視点で、日頃よりケアの妥当性・安全性についてカンファレンスを行っている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・成年後見人制度について講習を受けた職員が伝達学習の機会を持っている。 ・リーフレットを参照に説明できるようにしている。	現在、成年後見制度の利用者はいない。日常生活自立支援事業の利用者は2名いる。契約時には家族に説明をしている。成年後見制度について講習を受けた職員が、伝達学習の機会を持ち、又パンフレットを準備をしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時には、十分な時間をとって説明を行っている。契約に至る迄に利用者・家族に施設見学を複数回していただいている。 ・利用者が共同生活が可能かを確認して契約をしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・利用者の意向を把握するように努め、ケアに反映させている。 ・日々の面会時や”事業所便り”を届け、日頃の様子を詳しく家族に伝えるときに家族の要望や意見を聞く機会を持っている。	家族は毎日訪問する方が1名、週2～3回訪問する方が4～5名、月1回訪問する方が半分いる。訪問時に家族の要望、意見などを聞く機会を設けている。居室担当は利用者2名を持ち、パート職員がフォローし、日頃の様子などから意向を把握するように努め、ケアに反映させている。何か変化があった時は管理者にメールを送信し、管理者から返事をもらい、連絡を密にしている。「ひまわり大楠便り」で日頃の様子を家族に詳しく伝え、管理者が言葉を添えている	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・1回/月職場会議や職員主導のフローワー会議で意見を出し合い、話し合い方針を決めている。又、日常的にコミュニケーションを図り、意見を吸い上げる様に努めている。 ・レクリエーション等、職員の提案によるものが大きい	2ユニット合同で月1回、職場会議があるほか、ケアカンファ時に意見を出し合い方針を決めている。年2回の個別面談や不定期で希望による面談も実施しており、シフトの希望を聞いたり、相談も受けている。誕生会の時は居室担当者が利用者の気持ちを聞き取り行事につなげている。レクリエーションなど、初詣、桜見、バラ鑑賞、夏祭り、山笠、運動会など、職員の提案によるものが多い。4月には近くの公園の桜を見に行く。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・役職手当、資格手当の設定がある。 ・次のステップアップのために研修参加、資格受診への支援・声掛けがある。 ・処遇改善を職員へ反映させている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	・性別や年齢に関わらず、能力が発揮できるように配慮している。 ・子育て、高齢職員等、個々の希望を取り入れた勤務を配慮している。 ・スキルアップ支援体制、助成	20歳代から60歳代までの年齢層の職員がおり、男性は1名である。2階には休憩場所があり1時間休憩ができる。職員はパートを含み21名おり、看護師も常勤している。役職手当、資格手当の設定もあり、次のステップアップの研修参加、資格取得のための支援もしてくれる。	

H31.3自己・外部評価表(ひまわり大楠)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・入職時オリエンテーションで人権について言及、又、積極的に研修参加し、職場で伝達学習を行っている。 ・日常のカンファレンス「利用者第一」で話し合いを行っている。 ・職場会議で啓発議題を入れている。 	<p>入職時にオリエンテーションにより学ぶ。外部の研修に参加する機会もあり、南区の人権講座、ふくふくプラザで「相手のとってあなたは伝えやすい人ですか」の講座、ユマニチュード実践研修などの研修を受け、職場で伝達学習を行い、人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>社協や包括などからDVDを借りて見たり、人権団体などから講師派遣などを頼んでみたらどうだろうか。</p>
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> ・市の介護保険事業、グループホーム協議会、法人内等で開催される研修会への参加、職場内での伝達学習を通し、職員の力量向上に繋げている。 ・日々のカンファレンスでケア検証のOJT実践 		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・グループホーム協議会に参加し情報交換の機会を作っている。 ・リーダーを中心に他施設見学を行い、自施設の業務改善に繋げている。 		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・入所前に本人の背景(生活史、家族関係、大切にしていること等)を詳細に情報収集して、本人の思いを傾聴し不安解消に努めている。 ・その都度、家族から追加情報を得て対応している。 		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・今迄の介護を敬い労い、相談しやすい関係作りを努めている。 ・経済面も含め、問題解決に対応している。 		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・当事業所では対応できない場合、必要とされるサービスを検討し他事業所やサービス調整に繋がる橋渡しを行っている。 		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・一緒に生活を共にすることで、家事や趣味を通し、家族の一員として年長者を敬い、その人特性を学び指導して頂いている。 		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・近況を報告している。面会を楽しみにされている声を届け、家族と良い関係性を保持、又、支援している。 ・受診、買い物、外出泊等、家族の協力をいただいている。 		

H31.3自己・外部評価表(ひまわり大楠)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・その人が長年使ってきた家具や調度品を持ち込んで頂き、纏わる話題や趣味の継続が出来るように配慮している。 ・面会は家族の生活時間に合わせて出来るようにしている。	今まで一緒に趣味を行っていた友人の訪問があったり、面会もある。家族と一緒に映画を見たり、レストランに行ったり、正月には自宅にもどった利用者もいる。以前から趣味の書道をしたり、ハーモニカ、手品が得意な利用者が、みんなの前で披露することがあり、趣味の継続ができるようにしている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者同士のコミュニケーションが円滑にいく様に、日頃使用する馴染みのテーブル・椅子の配置を柔軟に検討し決めている。 ・摩擦や孤立の発生に適切な支援をするように努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・利用終了、逝去後の方に対し、他のサービス利用への情報提供や残された家族のフォローを行った。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・ケアカンファレンスを毎週開催し、出来る限り本人の意向に沿った支援を心がけている。 ・本人との会話の中から思いを汲み取るよう努めている。 ・家族の要望を伺い。希望に沿った支援を行っている。	初回のアセスメントは自宅、入院先などに訪問し情報収集に努め、利用者が何を求めているか正しく知るようになっている。入居後もセンター方式を利用している方が5~6名いる。カンファレンスも毎週開催し、本人会話の中から思いをくみ取り又家族の要望を伺い、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・初回アセスメントでの情報収集、医療機関・ケアマネージャーからの情報収集に努めている。 ・入居後もセンター方式で家族協力の基、生活歴等の情報把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・生活機能訓練計画表(ADLアセスメント)を共有している。 ・個人記録を共有し、利用者個々の状況を把握している。 ・申し送り、介護日誌で把握している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・本人、家族の意向をケアプランに取り入れている。 ・ケアカンファレンス、モニタリングが計画作成者や担当者からの意見に偏らないように、チームで話し合いケアの検討をしている。	本人、家族の意向を十分に汲み取りプランに取り入れている。個人記録で気付きを共有し、変化を見逃さないように、モニタリングを行い、チームで話し合いケアの検討をしている。短期目標は6か月、長期目標は1年であり、プランに沿って、目標の達成状況を見ながら見直しを行ない、目標と紐づけたケアプランを立てている。担当者会議には、本人、家族は、参加できる時は参加している。他業種のコメントも担当者会議の書類に書き込んでいる。	

H31.3自己・外部評価表(ひまわり大楠)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・排泄、食事、体重、水分量、睡眠状況等チェック表で可視化し状況把握して、ケアの検討・見直しに繋げている。 ・個人記録で気づきを共有し、計画変更・作成に活用している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・家族が遠方やいない方、都合がつかない場合、必要物品の購入、入退院付き添いの対応をしている。 ・家族の生活時間に合わせた面会を可能にしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域公民館活動に参加 ・地域社会協議会と協力して、独り暮らしの金銭管理を金銭管理規約の基行っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・かかりつけ医は、本人、家族の希望で決定している。 ・2回/月の訪問診療を受け、緊急時には主治医とすぐに連絡が取れる体制がある。 ・必要に応じ臨時往診があり、適切な支援が出来る。	かかりつけ医は、本人、家族の希望で決定している。月2回大楠診療所の往診があり、緊急時には医師とすぐに連絡が取れる体制がある。月2回歯科往診もある。他科受診の方は原則家族に対応してもらうが、難しい際は事業所が受診支援し、受診後は家族と診察結果を共有している。日中は看護師が常勤しており、日常の健康管理、異常の早期発見に努めている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・日中は看護師が常駐している。緊急時、夜間も24時間体制で連絡・対応が取れる体制がある。 ・介護職と情報を共有し日常の健康管理・異常の早期発見に努めている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時は、家族や入院先の主治医・看護師と情報交換を行い、早期退院に向けた働きかけを努めている。 ・頻回に面会に行き、医療スタッフと話し、その経過を個人記録に帰し共有している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・看取り支援を始め半年なので、少しずつ家族説明を始めている。 ・終末期については、主治医や医療スタッフを交えたカンファレンスを行い方針を共有している。 ・看取りをした事例は本人の同意があった。	管理者が看取りの研修を受け内部研修を行っている。看取りの事前確認書を、現在3~4名、取っている。緊急時、夜間も24時間体制で連絡、対応が取れる。終末期については、主治医や医療スタッフを交えたカンファレンスを行い方針を共有している。今まで1名の利用者の看取りを行っており、亡くなった後のカンファレンスも行った。	看取りの支援を始め半年なので、今後入居時に、家族に説明をしようと思っているとの事。今後もチームで支援に取り組まれることを期待している。

H31.3自己・外部評価表(ひまわり大楠)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・緊急時一次救命の講習を職員全員が受けている。 ・事故防止委員会を設置し、インシデント・アクシデント事象の検討を開始している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・2回/年避難訓練、緊急通報訓練を施設全体で取り組んでいる。(1回は消防署立ち合い) ・災害時に備え、非常食の備えをしている。 ・地域住民と共同した災害訓練は出来ていない。	年2回火災想定等の避難訓練、緊急通報訓練を行い、一回は夜間想定、一回は消防署立ち会いで行った。ハザードマップに登録はしてある。災害時に備え水、乾パン、缶詰などの非常食の備えはある。地域住民と共同した災害訓練はできていない。	町内会長、公民館などから情報を取り、地域住民と共同した災害訓練を、今後行う事に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・カンファレンス、職場会議にて、常に職員に意識づけを行っている。 ・入職時に個人情報の取り扱い、守秘義務について説明を受け誓約書を交わしている。	入職時に個人情報の取り扱い、守秘義務について説明を受けている。接遇マナーの研修も一年に1回は行っている。カンファレンス、職場会議にて、常に職員に意識づけを行い、トイレのドアは閉める。「ちょっと待って」などスピーチロックはその場で注意をしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・本人が希望を話せるようなかかわりを持つよう日頃から努めている。 ・出来る限り、本人が何をしたいかを聞くようにし、自分で決断できる方は自由に表して頂き、出来ない方には選択肢を提示している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・なるべく業務の流れを固定しない方針。利用者に合わせてケアを無理強いせずに希望に沿って行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・訪問美容1回/月を本人・家族の希望で対応。近隣の理髪店への外出等おしゃれが出来るように支援している。 ・整容、化粧が出来る方には手直し程度、出来ない方には支援している		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・好き嫌いを把握し、対応した盛り付けをしている。 ・食事の配膳片づけを利用者と一緒に行っている。時々おやつや食事を一緒に作っている。 ・外出で外食、好きなメニューを聞いて取り入れている。	個々の好き、嫌いを把握し調理場にメモを張り出している。本人の好きなメニューを聞き、取り入れている。食事はカロリー計算されたチルド食を外注。ソフト食、減塩食など食事形態に、対応している。食事の配膳、片づけなどを利用者と一緒に行っている。おやつなどを一緒に作ることもある。	

H31.3自己・外部評価表(ひまわり大楠)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事量、水分量はチェック表で確認し、必要量を確保できるよう努めている。 ・食事は栄養士によるカロリー計算されチルド食を外注。医療上必要とされる水分や食事形態に対応している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、利用者に合わせた口腔ケアを実施。 ・歯科診療所と連携し、治療・衛生指導を個人個人に対応している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排泄チェック表で個人個人の排泄パターンを把握し、利用者に合わせた誘導・声掛けをして、トイレで排泄ができるように支援している。 ・極力オムツにならないような働きかけを努めている。	布パンツで、昼、夜自立している利用者が、4階ユニットに2名いる。5階ユニットにも4名おり、トイレ内で失禁することがあるが、自分でパンツのはき替えを行っている。排泄チェック表で個々の排泄パターンを把握し、利用者に合わせた誘導、声かけにより、リハビリパンツから布パンツに改善された方がいる。極力オムツにならないように、働きかけを努めている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・水分補給、腹部マッサージ、適度な運動をすることで、自然排便を促している。 ・多くは入所前より解下剤を使用しており、主治医と相談しながら調整している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・入浴拒否をされる利用者に対しては、無理強いをせず、時間・日をずらして対応している。 ・毎日シャワーを希望される方があり、希望に沿っている。 ・二人介助が必要な場合、二人介助にて安全に対応している。	入浴時間は10:30から15:00の間で行われている。入浴時間は、希望される時間に対応している。個浴で一回づつ湯を取り替えている。毎日シャワー浴を希望される方がいる。二人介助が必要な場合は、二人介助にて安全に対応している。シャンプー、リンス、ボディシャンプーなど好みの物を使用し、入浴を楽しみ、コミュニケーションの場としている。入浴時は皮膚の状態を観察し、必要な時は看護師が薬を出している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・日中の休息は、自由に居室・ソファーで来ている。 ・消灯時間はなく、個人に合わせている。 ・徐々に照明を落とし、安眠できる環境調整をしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬の内容、効能や副作用を個人ファイルに入れて、変更の際、業務ノートに記入し申し送りして把握できるようにしている。 ・錠数、氏名を二人で確認し、口腔内までの服薬確認をしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・利用者各自のできる能力、得意とすることを本人の申し出や声掛けにより家事等を一緒にしていただいている。 ・イベントの時に、お茶や楽器演奏・歌を披露していただいている。		

H31.3自己・外部評価表(ひまわり大楠)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・季節のイベント(初詣・花見・山笠見学)やドライブ、買い物などに外出している。 ・天候に合わせて、散歩をしたり、地域行事に参加をしている。 ・外出は利用者の希望に沿って実施している。 	近隣のコンビニに職員と一緒にいたり、天候に合わせて散歩をしている。夏祭り、文化祭、運動会など地域行事に参加している。季節の行事、初詣、花見、山笠見学などに外出する機会もあり、利用者の希望に沿い、できる範囲で外出支援を行っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・金銭の自己管理は難しく、家族の依頼で管理規約の基、お預かりしていて、本人の財布に一部入れて買い物と一緒にいたりしている。 ・ある程度、判断のできる利用者(2名)は自己管理もできている。 		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・本人が希望されるときは、家族の生活時間を考慮の上、可能な限り、電話を取り次ぎ会話をさせていただく。 ・手紙、ハガキの掛ける利用者は支援し、投函する。 		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・季節の花木・工作をお置いて季節を感じて頂いている。空調管理 ・大きな音を出さない作業を心がけている。 ・調理場よりオープンで調理しながらも、利用者の見守りができている。 ・音楽を流し、リラックスできるようにしている。 	調理場より全体が見渡せ、調理しながら、利用者の見守りができる。洗面台は四か所にあり、清潔で広くゆとりとしている。居室の入口にはゆり、ふじ、あやめ、ひまわり、などの花の絵が飾られ、華やかな趣が感じられる。柔らかな音楽が流れ、リラックスできるようにしている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・ソファや椅子の配置で個人個人の好みの場所づくりに努めている。 ・馴染みの場所、気の合う利用者同士、孤立をさせない配慮を行っている。 		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・長年、自宅で使用された家具・調度品を持ち込んでいただき、本人が使い勝手がいい配置を伺い、馴染みの物に囲まれた生活ができるよう対応している。 ・家具の配置変更の希望があれば、その都度対応している。 	居室にはベッド、冷暖房、カーテンなどは設置されている。モダンなテーブルなどの家具を自分なりに配置し、馴染みの物に囲まれ、安心して過ごしている。家族の写真も飾られ、笑顔に包まれ過ごしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレや居室には、わかりやすく目印を付けている。 ・洗面・整用具は、定位置を決めて使用されている。わからない場合は支援をしている。 ・家族の許可と本人希望で居室に大きく名前を掲示させていただいている。 		